

FIGマレーシア大会報告(1)

日本測量者連盟総幹事 中堀 義郎

1. はじめに

国際測量者連盟(FIG)の第25回Congress(本稿では「国際会議」という)が2014年6月16日～21日、マレーシア国のクアラルンプールコンヴェンションセンターで開催された。FIGは、全世界の測量者の利益を代表する主要な国際機関で、各国の測量者の協会を主な構成員とする連合体である。日本は、測量関係団体等で構成される日本測量者連盟(JFS: Japan Federation of Surveyors, 事務局は日本測量協会)がFIGに加入している。

マレーシア会議は2010年のシドニー会議に続くものである。「国際会議」は、毎年開催される作業週間(Working Week)と違って、会長選挙が行われる他、4年毎の活動の総括、今後の計画立案等が議題となるなどFIGの運営に関して節目のイベントであるだけでなく、講演に充てられる日数が作業週間より長く、国連(UN)との合同セッション、国の測量機関の長とのフォーラム等内容が盛りだくさんで、講演数、参加者数共に多い。

会議は、マレーシア公認土地測量者協会(PEJUTA)がホスト役を務めた。開会式にマレーシア国ナジブ・ラザク首相が来賓として参加され、開催国の代表として世界から集まった測量者達に歓迎の挨拶をされた。所管省庁の担当大臣の挨拶ならよくあることだが、首相の挨拶となると特別である。マレーシアでは、FIGのステータスが高く、測量者の仕事が国家にとっていかに重要であるか一般にも幅広く理解されているのであろう。

実は140年近いFIGの歴史の中で、国際会議がアジアで開催されるのはFIG始まって以来初めてである。マレーシアは、現在一人あたりのGDPで見るとアジア第13位、世界では59位、ASEANではシンガポールに次ぎ2位の国であり、20世紀の超高層ビルとしては世界一高いことで有名なペトロナスツインタワーを建設するなど、国際社会の中で経済発展を強くアピールしている国である。マレーシアは、2020年までに先進国の仲間入りを世界に宣言し、ITでも先進国への道を歩ん



6月21日総会に出席したJFS海津第7分科会委員長(左)と筆者

でいる。また、海外からの入国者数は年間2500万人と、日本の880万人(2013年4月暫定値)の約3倍である。今回マレーシアでのFIG会議開催は、そのような国家政策目標に向けた活発な経済活動と無関係ではあるまい。

FIGは、参加してみるとわかることであるが、測量者のユニークな組織であり、学会とは全く違う。今回、初めて国際会議に出席する機会を得たので、ここではFIGのユニークな点に触れつつ、会議の報告を述べる。

2. 国際測量者連盟(FIG)の構成員

FIGというと、測量学の権威が集まるアカデミックな学術研究発表等の最先端の難しい議論をする場というように感じられる向きも多いことであろう。しかし、実際には測量実務、政策教育、マーケティング等測量者に密接に関連する内容が多い。

FIGを構成する会員には次の4つのカテゴリーがある。FIGの主たる構成員は、各国の測量者の団体であるMember association(会員協会)であり、87カ国の102団体からなっている。それぞれの会員協会は、その会員1人当たり4.48ユーロ(約600円)をFIGの会費として負担し、FIGの運営事項等に関する総会における議決について投票権を有している。次に、国の測量機関はAffiliate member(連携会員)となって分科会(Commission)に代

表を送れるが総会での投票権はない。40カ国から43機関が連携会員となっている。また、大学等はAcademic member(学会員)となり、測量者に対する測量実務と教育訓練の橋渡し役を務める。分科会で活動できるがやはり総会での投票権はない。56カ国から89機関がこれに属している。その他、測量者の専門に関連した商業活動をする企業会員がある。従って、FIGは、各国の測量者協会が運営の中心となった組織といえよう。

3. 会議の出席者

今回の会議に10人以上の代表団を送り込んだ国及び地域等を、6月24日現在の参加者リストから地域別にリストアップしたのが次の表である。参加者数は、主催者発表によると約100カ国から2,500名以上となっていて、シドニー大会の参加者数約2,200名に比べると300名程多い。これまでの大会では最大規模である。

開催国マレーシアからの参加者が800名以上と最多であるのは当然としても、ナイジェリアからの350名以上の参加者が際立っている。また、地域別に見ると、マレーシアに近いアジア太平洋地域とFIG発祥の地ヨーロッパからの参加者が多く、南北アメリカ大陸からの参加者は少ない。

参加者の所属機関の内訳をざっと見ると、米国はESRI, TRIMBLE, INTERMAP等商業展示関係の会社からの参加が多く、ドイツは大学からの参加が多い。

ナイジェリアは測量会社からの参加者が目につく。国によって参加者層が異なるのも興味深い。日本からの参加者は27名で、前回のシドニー大会の参加者5名に比べると格段に増加した。この内、JFSに加盟している団体からの参加者は、村井会長を含め11名、スポンサー企業から9名、国の機関3名、その他4名という内訳であった。

4. 会議の主な内容

今回の会議の内容をプログラム集からリストアップして見てみると、次のようになる。

- ①マレーシアのナジブ・ラザク首相が出席された開会式
- ②FIGの運営に関する最高決議機関である総会
- ③測量者が直面する問題を国連の機関等と連携して幅広い視点で議論する全体集会
- ④分科会主催の技術講演会(多数の会場で並行開催)
- ⑤Young Surveyors Conference
- ⑥タスクフォース(気候変動, アフリカ)のセッション
- ⑦UNの機関(世界銀行, GGIM-AP, FAO, HABITAT, ESCAP等)とFIGの合同セッション
- ⑧FIGの会員協会会長の会合
- ⑨FIGと国の測量機関の長及び提携会員等の会合
- ⑩FIG学術団体会員のフォーラム
- ⑪展示会

FIGの会員協会の会長又は代表団長の出席を求められているプログラムとしては、16日の総会、17日の会員協

会のフォーラム、18日のCarbon Offset Program(二酸化炭素対策運動としての記念植樹: PEJUTA会長の招待による参加)、19日のYoung Surveyors Conferenceの参加者と会員協会との意見交換会、20日のFIG会員協会の会長会議、21日の総会と、それに加えて毎夜のソーシャルイベントを含めると、村井会長はかなり忙しいスケジュールをこなされた。

(次号につづく)

地域	国・地域名	参加者数	地域	国・地域名	参加者数
アジア太平洋地域	マレーシア	830 (11)	ヨーロッパ	ドイツ	36 (46)
	オーストラリア	74 (782)		オランダ	26 (21)
	シンガポール	61 (13)		イギリス	25 (28)
	トルコ	48 (44)		フィンランド	23 (26)
	インドネシア	35 (20)		スウェーデン	16 (26)
	中国	31 (35)		スイス	15 (11)
	日本	27 (5)		デンマーク	15 (14)
	ニュージーランド	21 (59)		フランス	11 (7)
	ラオス	18 (1)		ブルガリア	11 (8)
	大韓民国	17 (16)		ロシア	10 (7)
	バングラデシュ	15 (0)		ナイジェリア	353 (112)
	フィリピン	14 (8)		ケニア	24 (16)
	台湾	12 (0)		ガーナ	20 (15)
香港	11 (19)	モロッコ	17 (66)		
北米	米国	47 (57)	コンゴ	14 (1)	
			南アフリカ	10 (9)	

()内は、2010シドニー大会参加者数

FIGマレーシア大会報告(2)

日本測量者連盟総幹事 中堀 義郎

5. 総会での主な議事

○2016年の会費

会員協会の2016年の会費は、昨年決定された2015年の会費と同じく会員協会の会員1人当たり4.48ユーロに据え置くことになった。

○会則の改正

会則6.6(投票権に関する規程)が次のように改正された。

従来	1会員協会は1つの議決に1票を投じることができる。
修正案	1会員協会が1つの議決に投じることのできる票数は、次の通りとする。 a) 最近の会費納入時の会員数が999名以下の場合、1票 b) 最近の会費納入時の会員数が5,500名以上の場合、3票 c) 上記以外の場合、2票
備考	2012年ローマにおける総会で、投票権に関する作業部会から、投票権は会員協会の会員数にスライドするよう改正すべきであるとの勧告があり、満場一致で承認された。役員会で、会則修正案がまとめられ、16日の総会で決定され、21日の総会から適用される。

ちなみに、JFSの投票権は1票である。

○会長及び副会長選挙

会長選挙に立候補したのは、現副会長でギリシャ出身のクリッシー・ポツィオウ博士1人であった。副会長は定員が4名でその内2名が任期満了となり再選となる。6名の立候補者があったが、イスラエルの候補者はマレーシアに入学できず棄権となった。これらの候補者の立候補演説が16日にあり、投票までの選挙期間を経て21日の総会で投票が行われた。会長には、ポツィオウ博士(55歳)、副会長には現副会長でドイツのシュタイガー教授(57歳)及びFIGアフリカタスクフォース委員長のイギリスのドゥマシエ女史が選ばれた。これらの役員者の任期は2015年1月1日～2018年12月31日である。

○2017年の作業週間及び2018年の国際会議開催地

2017年の作業週間開催地には、フィンランドのヘルシンキ、ヴェトナムのハノイ、ネパールのカトマンズが立候補し、投票でヘルシンキが選ばれた。また、2018年国際会議の開催地の立候補はトルコのイスタンブールだけであり、同地での開催が承認された。なお、2015年と2016

年の作業週間はブルガリアのソフィア及びニュージーランドのクライストチャーチでの開催が既に決まっている。

○分科会(Commission)委員長の任命

2015-2018の分科会委員長が以下のとおり任命された。

Commission 1 : Mr. Brian J. Coutts, NZIS, New Zealand

Commission 2 : Ms. Liza Groenendijk, GIN, Netherlands

Commission 3 : Mr. Enrico Rispoli, CNGeGL, Italy

Commission 4 : Ms. Angela Kesiena Etuonovbe, NIS, Nigeria

Commission 5 : Prof. Volker Schwieger, DVW, Germany

Commission 6 : Dr. Ivo Milev, USLMB, Bulgaria

Commission 7 : Ms. Gerda Schennach, OVG, Austria

Commission 8 : Mr. Kwame Tenadu, GhIS, Ghana

Commission 9 : Prof. Liao Jinping (Patrick), CIREA, China PR

Commission 10 : Mr. See Lian Ong, RICS, United Kingdom

Young Surveyors Network: Ms. Eva-Maria Unger, OVG, Austria

なお、Young Surveyors Networkについては後でも述べるが、分科会と同レベルに位置付けられているのが注目される。

○その他

欧州測量者委員会(CLGE: The Council of European Geodetic Surveyors)及び全国職業測量者協会(NSPS: The National Society of Professional Surveyors, 米国)から、“Global Surveyors Week”について共同提案があった。NSPSでは3月第3日曜日からは始まる週を“National Surveyors Week”としている。CLGEでは、同じ週の金曜日を“Day of the European Surveyor”としている。このことを踏まえ、FIGが測量者の社会に対する重要な役割を認識し、促進し、祝うために“The Global Surveyors Week”を計画してはどうかという提案があった。総会では、提案があったことを記録にとどめ、今後検討することとなった。

6. 分科会での充実した技術講演

10ある分科会が主催する技術講演会は、今回も多数の

会場に分かれて盛大に開催された。論文総数は、プログラム集で集計すると約470件で、分科会別に見た発表論文数は、下図のとおりである。第5分科会(測位及び測定)及び第7分科会(地籍測量と土地の管理)では論文数が特に多く、同じ時間帯に2会場に分けて講演が行われる場合もあった。UNとの共同セッションでは、講演題目が公表されていない会議が多く、実際の講演数は確認できないが、主催者によるとすべての会議を含め、550の講演が行われた。

FIGでは、30分のコーヒープレイクも重要な時間である。各国から来た測量者が再会を喜び合ったり、初めて会う見知らぬ者同士が交流をしたりする風景が、あちらこちらで見られた。茶菓子の類は展示会場に用意されていたため、コーヒを飲みながら展示ブースに顔を出す人も多く見られた。

7. 青年測量者会議：FIGの新しい取り組み

分科会とは別に、青年測量者のためのプログラム(Young Surveyors Conference)が生まれ、そこに日本から17歳の高校生をはじめ各国から多数の参加者があったことは特筆に値する。FIG会員協会会長の意見交換会でドイツ、イギリス、米国、カナダ等の欧米先進国の会長が繰り返し強調したのは、青年測量者の不足と高齢化の問題であった。日本でも全く同じ悩みを抱えている。米国、カナダなどは測量者の平均年齢は57歳であるという。このような深刻な問題に対応するため、FIGは青年測量者ネットワーク(YSN: Young Surveyors Network)を組織し、各分科会と横断的に協力しつつ青年測量者を支援する活動を開始している。YSNは、FIGでは新しい

分科会と位置づけがなされている。昨年から今年にかけて、青年測量者の会は、北米及び欧州地域において開催されている。今回のFIG国際会議に合わせ、第2回青年測量者会議とアジア地域の青年測量者の会が開催された。JFSにとっても、FIGと大いに連携をして、青年測量者が国際的な経験を積む機会を作ることで青年測量者を支援することは重要な取り組みの一つであろう。

8. おわりに

FIGの「国際会議」は、測量者の視点で問題を幅広く取り上げている会議である。国連の専門家による測量者が関与すべきグローバルな問題に関する講演、各技術分野の最先端技術に関する講演、測量者の高齢化の問題、若い測量者を育てるプログラム等、一つの会場でいろいろな話題に触れ、議論できるというFIGの国際会議は、測量者にとってはまたとない勉強の機会である。

FIGの参加者の間には、測量という同じ職業にあるもの同士国際友好を深めようという雰囲気があり、FIGは「世界測量者の仲良しクラブ」と言っても過言ではないだろう。個人経営の測量会社の親子が参加されても、老いても若きもそれぞれ成果が得られる場である。

FIGの事務局長であるフリースハンセン女史は、帰りに参加者が皆満足そうに帰って行くのを見ると大変幸せな気持ちになると言っていた。それはよく理解できる。筆者も、FIGのような場を日本の測量者にも経験してほしいと思う。

筆者が別れの挨拶をした際「日本はFIGにもっと貢献してほしい」と一言注文がついた。JFSがFIGに納めている会費は、貧しい途上国と大して変わらない。また、JFSがFIGの分科会活動に積極的に参加するにも活動資金不足の感がある。経済大国で技術先進国である日本にももう少し貢献してほしいという彼女の注文は尤もであるが、海外との交流を広げようとする測量者が少ない日本では、それに應えるのはたやすいことではない。

欧米では、民間の測量者だけでなく大学の測量学の先生も政府の測量者も測量者協会の個人会員になっている。JFSは、測量関係団体が主な構成員であるが、時代の新しいニーズに応える事業に取り組みつつ、より多くの多様な個人会員の参加も得て、測量者の利益のために活動の幅を広げていくことが、今後の一つの大きな課題であるように思われる。

発表論文数

